

社說

# 小學校の手書き

んぜざるに當り又々非常の大洪水に遭遇せる事は已に此程よりの電報にも見えし所なるが尙ほ一時十三日發の通信に據りて其概況を掲げんに去る六日は朝來の降雨なりしが午後三時三十分頃雷鳴頻りに轟渡りて忽ち大雷雨と爲り（縣内數箇所に落雷したる中にも各務計りに降注されたれば木曾、長良、揖斐の三大川を始め他の諸川に至るまで一丈三尺乃至一丈五尺の増水と爲りあり）殊に翌七日午前二時頃には猛雨車軸を流さん過半破壊して各町村に浸水し岐阜市の如きも浸水の床上二尺に達せしもの已に數百戸依然るに雨は更に歇まざるのみか同夜より翌八日に掛けて一層の暴雨ありしかば諸川とも漸次増水して揖斐川は一升二合（堤防に満水するを一升と稱す）、木曾川は二丈二尺餘、長良川は一丈五尺餘の大洪水と爲りたり左れば諸川數百の滞止箇所も僅々三四箇所を除くの外悉く切入り續てあらず隨て浸水區域の如きも益々増大と爲りたるに暴雨は其翌九日に至るも尙ほ歇まざれば諸川の水量孰も一升二合乃至一升三合の多さに達して未嘗有の大洪水と爲り大垣輪中を始め各輪中の堤防を決済して益々氾濫を逞うし到る所浸水の高さ去る七月の洪水より五尺也高くして其屋上に及べるもの無算と云ふく浸水の區域に至ては飛驒國と恵那郡を除くの外は殆んど全縣下浸水せざる土地無しと云ふべし程にて縣下の人口九十萬餘なるに目下日々焚出救助を受くるもの實に廿七萬千三百餘名の多さに達して殆んど縣民三分の一を占むるに至りしより見るも其慘状の一斑と窺ふに足るべし斯くて雨は漸く十二日午前三時二十五分頃に至りて小歎と爲りしも其頃より北西の烈風吹荒みて益々水量を増加したるが爲め高須町（凡そ八百餘戸）の如き人家三分の二を流失して五十餘人の溺死者を出したりとの急報さへありたれば其他にも此烈風の爲め一層被害の度を高めたるもの少からざるべし兎に角出水以來各郡町村の交通全く杜絶したる有様なれば家庭の流潰、人畜の死傷を始め田畠、堤防、道路、橋梁等の被害は到底減水の後に非ざれば其詳細を知るに由なきも前の水災風害に比して一層甚大なるべしと云ふ

## ○大阪洪水續報（十日午後五時發）

十日午後四時に至るも天候盡々惡しく暴雨依然降續きたれど淀川筋の水量前々日に比し二尺二寸を減じたれば此上再度の増水なくば淀川筋南岸の堤防は先づ無事ならんと當局者を始め一般人民は只管其無事を祈りつしあり

中央備荒貯蓄金請求 去る七月二十一日及び八月卅一日の風水被災復舊工費九十二三萬圓を要するに付制規に基き中央備荒貯蓄金の補助を請求せんとて其調査未だ終らざるに又々今度の大洪水を來し其被災頗る莫大に登る見込なれば調査済み次第又々備荒貯蓄金を請求する

支那の船に押しつぶす。云ふたるに、大阪本店は、埠頭に埠頭門戸を開いて、次郎が十日ほど遅延するべく、汽船を汽船送りし間もなく、波國室兵衛の如きが、左の行はを以て埠頭に上陸して、死體を運び、農商、銀行へ運びける。

通送の夫しを航船より保山衙紅員四事務より壊度とな  
水セレモニヤガル開戸ノ汽船工事

後篇  
女武者